問 医療費削減を（ジェネリック医薬品を推進）

答 医師会との調整を行い促進したい

横尾　正文 議員

Q ジェネリック医薬品（以下後発品）の推進によって医療費の削減は出来ないか。
また病院の重複受診はないのか。

A 町長
本町が運営する国民健康保険では、後発品推進の広報活動は行っていない。今後は近隣の市町の動向を踏まえ、医師会との調整を行い、利用促進を図りたい。
重複受診は調査の結果ないということである。

Q ①後発品の町内での普及率は。
②普及率を50％に引き上げた場合の医療費の削減額は。
③差額方式（先発薬から後発品に替えたら医療費の負担がこれだけ減ると、金額を明記して国民健康保険の被保険者に知らせる内容）は導入出来ないか。

A 福祉課長
①普及率は30％
②普及率が50％になると概算で月あたり推定50万円の削減。
③差額通知に関しては、医師会との調整を行って推進したい。

神石高原町立病院の透析室

Q レセプトデータベース（診療報酬明細書）の活用状況は。

A 町長
保健指導対象者の抽出時に利用し、正確な保健指導によって医療費の削減を行っている。

Q 生活習慣病による糖尿病性腎症からの透析患者が増加しているが防止策は。
また町の健診状況と健診を利用しての対策は。

A 町長
特定検診の結果により特定保健指導を行い、バランスのよい食事を町民に心掛けるよう啓発に努めている。

A 保健課長
特定検診の受診率は、48・5％で県下トップである。さらに今年度から保健課に栄養士を配置して、食生活の改善と食育を町全体で取り組みたい。

Q 近隣であれば指定管理で運営されている東城保育所が、先進的で成功している例がある。
公設民営にするのであれば、子どもに負担がかからないよう細心の注意を。

A 副町長
原則として、町の方針が反映出来る指定管理者を選定することと、保育指針についても、管理者が指導できることが大切である。
質を落とさずにサービスの向上が大切であり、民間による新たなサービスが図られるのであれば、出来る範囲で取り組んでいきたい。

その他の質問
支所のあり方

問 平成25年度予算編成に取り組む姿勢は

答 持続可能な財政運営に努力

橋本　輝久 議員

Q 町の財政状況は、健全化の傾向ではあるが、地方交付税などの減額が予想される。
平成25年度予算編成では、経常経費の抑制、無駄の排除、節約などに重点をおくのか。

A 町長
12月3日に予算編成会議を実施している。基本的な考えとして、持続可能な財政運営に努力していきたい。
また、歳入に見合った歳出を基本として、一般会計予算の目標総額90億円に設定し、経常経費の10％抑制を目指す。

Q 前年対比マイナス約7％だが、事業全体を抑え込み一律に削減するのか。

A 町長
一律に削減しようとは思わない。事業によっては廃止するもの、継続するもの、新たに少子化対策などに取り組む事業もある。精査をし、予算編成に取り組む。

Q 住民サービスの低下など心配する。住民に負担を求めることはないのか。

A 町長
統合中学校建設があるが、今の段階では住民に負担を求めることはない。

Q 予算の中で人件費がかなりウエイトを占めるが削減策は。

A 町長
自主財源が約10億円で、人件費は15億円である。オーバーしているが財源内に抑えなくてはならない。財源内におさえる目標としてとらえている。

Q 住民生活に直結する事業経費については、現状維持を。

A 町長
自公政権誕生となり、10兆円に及ぶ大型補正をし、景気をあげる政策を実行しようとしている。
老朽化した道路や橋の修繕など強靱化社会を目指しデフレ脱却が、最重点課題である。あらゆる情報網を使って予算を取り込む努力し対応できる万全の体制をとる。

Q 第2のトマト団地構想の現状は。

A 町長
現段階では規模など詳細について決まっていない。構想としては、豊松のトマト団地の規模でふたつ以上整備したいと考えている。土地の条件が合えばもっと大きくなる場合もある。
平成25年度予算に、関連する予定。

豊松トマト団地

Q ①寄宿舎について、希望者対象なのか。
②生活指導体制は。
③通学生徒の対応は。

A 教育長
①定員は男女各20名で希望入寮としている。
②指導体制については、舎監長1名、舎監1名、管理人1名寄宿舎指導員1名、学習指導員数名を考えている。
③通学生徒の対応は、原則6キロメートル以上の生徒にたいして、スクールバスの運行を考えている。